

令和7年6月

各市町教育委員会教育長 様  
各小中学校校長 様  
各小中学校教職員 様

愛媛県教育研究協議会会長 川上 斉睦  
同 教育研究局長 悦内 誠二  
同 国語委員会委員長 則友 美紀

## 第77回 愛媛県国語教育研究大会（大洲・喜多） 御案内

《研究主題》  
確かで豊かな言葉の力を育む深い学びの探究

皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。  
標記の研究大会を、御案内のとおり開催いたします。

うづもれし御代の古言かき出でて誰に問はまし君ならずして

矢野 玄道 はるみら

矢野玄道は、幕末から明治という激動の時代を生き抜いた国学者です。大洲久米村阿蔵に生まれ、幼い頃から学を好み、古典研究のかたわら国事に奔走したと言われていています。彼の詠んだ歌の上の句からは、埋もれてしまっている古き良き時代の言葉と真摯に向き合う姿勢が感じられます。また、下の句からは、「君」という存在の大きさや、その「君」と問答することによって学びを深めようとする姿勢が読み取れます。

このように、矢野玄道は、古（いにしえ）の言葉に向き合いながら、他者との対話を通して学びを深めていたと考えられます。これは現代にも通じる学びの姿勢です。私たちは今、AIやICTの発展によって、先人の知恵や最先端の知見に容易にアクセスできる時代に生きています。しかし、それらをただ知っていることに価値があるわけではありません。得られた情報を比較して吟味したり、他者と対話を重ねて考えを深めたりすることによって、初めて自分自身の知となるのです。そう考えると、約200年前に大洲が生んだ国学者・矢野玄道が行っていたような、「他者との対話を通して学びを深める」という姿勢は、時代を越えて今なお価値ある、不易な学びの在り方につながるといえるでしょう。

このような視点は、国語科の学びにも通じます。目の前の児童生徒の「確かで豊かな言葉の力」を育むためには、これまで本県の国語教育に携わってきた諸先輩方の研究や実践に学び、それらを私たちの国語教室にどう生かすかを考えることも大切です。また、この研究大会で提案される優れた実践の中にも、そうした不易の学びが含まれています。それらを自らの実践にどう取り入れていくかを探る姿勢も、これからの国語教育に求められるものだと思います。

参加していただく皆様全員にとって、学びの場となるような研究大会にしたいと考えております。ぜひとも御参集賜りますよう、御案内申し上げます。

日時 令和7年8月1日（金）13:00~16:40

会場 国立大洲青少年交流の家

主催 愛媛県教育研究協議会

後援 愛媛県市町教育委員会連合会

大洲市教育委員会

内子町教育委員会

公益財団法人愛媛県教育会

【講演】

演題「言葉 {を/で/から} 考える国語教育のために、  
日本語学ができること」

講師 愛媛大学教育学部 講師  
清田 朗裕 先生

# 1 研究主題 確かで豊かな言葉の力を育む深い学びの探究

研究の視点	<p>1 「確かで豊かな言葉の力」を育む単元づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学びの系統性をふまえたねらいの明確化</li> <li>○ 学習者を主体とした教材の研究</li> <li>○ 魅力的で価値ある言語活動（かかわり）の工夫</li> </ul> <p>2 「確かで豊かな言葉の力」を育む授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 解決すべきことを明確化・焦点化した学習課題の設定</li> <li>○ 共同学習者との対話的活動の充実</li> <li>○ 言葉の学びを促す振り返りの工夫</li> </ul> <p>3 育まれた「確かで豊かな言葉の力」や学びの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習活動の改善・充実に機能する形成的評価の工夫</li> <li>○ 児童生徒一人一人の学習成果を判定する総括的評価の工夫</li> <li>○ 学習意欲や自己の変容を認知する自己評価・相互評価の工夫</li> </ul> <p>4 「確かで豊かな言葉の力」を育むICTの効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元づくりにおけるICT活用場面の計画</li> <li>○ 授業におけるICT活用の充実</li> <li>○ 評価におけるICT活用の工夫</li> </ul>
-------	--

2 期 日 令和7年8月1日（金）

3 会 場 国立大洲青少年交流の家  
〒795-0001 大洲市北只 1086 TEL 0893-24-5175

4 日 程

13:00		13:40		15:15		16:30		
受 付	開 会 行 事	主 題 解 説	移 動	分 科 会	移 動	講 演	準 備	閉 会 行 事
		13:30			15:00			16:25 16:40

5 開会行事

開会挨拶	愛媛県教育研究協議会国語委員会	委員長	則友	美紀
祝 辞	大洲市教育委員会	教育長	榎部	昭彦 様
来賓紹介				

6 主題解説

愛媛県教育研究協議会国語委員会 研究部 渡部 真吾

## 7 分科会

分科会		提案主題者 提案者	記録者	司会者	助言者
1	小学校 「話すこと・ 聞くこと」	「共感的な対話」を生み出す国語科の授業づくり —ダイアログカードを活用した学び合い学習を通して— 西条市立神拝小 山下 楓馬	西条市立 禎瑞小  川瀧 彩加	八幡浜市立 宮内小  井上 千佳子	愛媛県 総合教育センター 教育開発部長 渡部 和寛
		複式授業において、主体的に学習に取り組む児童の育成 —間接指導中の言語活動を中心とした関わりを通して— 伊予市立下灘小 宇津 博美	伊予市立 中山中  栗田 響		
2	小学校 「書くこと」	共同学習者との対話的活動を取り入れた「書く」ことの指導の工夫 —「思い出のアルバム」の実践を通して（1年）— 松山市立素鷲小 福井 友梨	松山市立 東雲小  清家 和子	大洲市立 大洲小  高木 滯	松山市立 味生小 指導教諭 大久保 礼子
		経験したことや想像したことなどから書く力を育成する指導法の研究 —「どんなおはなしができるかな」の学習を通して（1年）— 西予市立城川小 山口 紗弥	西予市立 宇和中  中野 正一		
3	小学校 「読むこと」	読みを深めるための言語活動を設定した学習活動の研究 —「帰り道」の実践を通して（6年）— 四国中央市立関川小 三宅 雅人	四国中央市立 関川小  松本 優果	新居浜市立 垣生小  河村 誠	愛媛大学 大学院教育学研究科 特定教授 田頭 良博
		焦点化と協働的な読みの工夫 —「大造じいさんとガン」の学習を通して（5年）— 八幡浜市立千丈小 石原 妙子	八幡浜市立 保内中  細川 美保		
4	中学校	知識構成型ジグソー法の活用 —「少年の日の思い出」の実践を通して（1年）— 今治市立西中 西村 日菜	今治市立 西中  菊川 美保	松山市立 北中  濱口 早紀	中予教育事務所 地域教育推進課 指導主事 大上 航太
		語彙力向上を目指した指導法の研究 —「今に生きる言葉」の実践を通して（1年）— 松野町立松野中 有友 瑛里子	鬼北町立 日吉中  亀井 涼香		
5	書 写	対話的活動を取り入れた書写授業の工夫 —行書学習におけるICT活動を通して（1年）— 大洲市立大洲北中 井上 脩	大洲市立 長浜中  山田 毅	篠山小中学校組合立 篠山中  大西 由美	愛媛県 書写教育協議会 顧問 山下 和美

## 8 講演

演題 「言葉 [を/で/から] 考える国語教育のために、日本語学ができること」  
講師 愛媛大学教育学部 講師 清田 朗裕 先生

### 〈略歴〉

熊本大学教育学部を卒業後、大阪大学大学院文学研究科にて博士前期・博士後期課程を修了。博士（文学）。専門は日本語学。その後は、近畿圏の国立・私立大学にて教鞭を執るとともに、積極的に附属学校において日本語学と国語教育をつなぐ実践をされてきた。令和5年に愛媛大学教育学部に着任し、国語教育や日本語学の講義を行うとともに、附属小・中学校の研究アドバイザーを務められている。

記録者

伊方町立伊方小  
松山市立南中

教諭  
教諭

曾根 希美  
渡部 明日香

## 9 閉会行事

閉会挨拶

愛媛県教育研究協議会国語委員会 副委員長 山田 真理

## 10 参加費・資料代 無料

愛教研会員以外の方は、別途資料代（1,000円）が必要となります。なお、講師の方の資料代は不要です。

## 11 申込み

※ 7月14日（月） 締切です。  
下のQRコードからGoogleフォームに入り、必要事項を御記入ください。



## 12 備考

研究大会前（11:30～）支部委員長会を開催します。出席できない場合は、必ず代理（支部副委員長等）の出席をお願いします。なお、支部委員長の昼食は「森のレストラン」で食べていただきます。

## 13 問合せ先

愛媛県教育研究協議会国語委員会事務局  
愛媛大学教育学部附属小学校内  
幸島 恭輔

TEL 089-913-7861

FAX 089-913-7862

mail:kojima.kyosuke.cv@ehime-u.ac.jp

### 《会場地図》

